

シュンギクのハクサイダニの防除方法

福島県農業総合センター 生産環境部作物保護科

部門名 野菜－シュンギク－病害虫防除

担当者 荒川昭弘・山内富士男

I 新技術の解説

1 要旨

シュンギクの施設栽培で多発し、問題となっているハクサイダニに対して、ペルメトリン乳剤の効果が高く、本種の発生確認後に散布することで被害を軽減できる。

- (1) ペルメトリン乳剤4000倍のハクサイダニ成虫、幼虫、若虫に対する効果は高い(図1～4)。
- (2) 本種は夏季に卵で休眠する。ハクサイダニの無加温ハウスにおける第1回目の発生は11月下旬からみられ、12月中旬以降産卵が開始される。産卵部位はシュンギクおよび土壌中である。卵は翌月にふ化し1月以降には2回目の発生がみられる。
- (3) 肉眼で成虫、若虫が確認できたらペルメトリン乳剤4000倍を散布する。ハクサイダニは振動に敏感であり、散布時には株の根本や土中に潜り込むので、虫体が見られなくともペルメトリン乳剤4000倍を丁寧に散布すると効果が高い。
- (4) 2回目以降の成虫が産卵する卵は休眠卵となる。
- (5) 本種はアブラナ科、アカザ科、キク科の作物の他、多くの雑草にも寄生するので周辺作物での発生状況を把握し、特に雑草で発生しないよう管理することが重要になる。

2 期待される効果

- (1) シュンギクのハクサイダニに対して発生確認後の薬剤防除で被害が軽減できる。

3 適用範囲

県下全域

4 普及上の留意点

- (1) ペルメトリン乳剤は、シュンギクに対して収穫21日前、使用回数は2回以内であるので使用方法を遵守する。

Ⅱ 具体的データ等



写真1 ハクサイダニ成虫



写真2 ハクサイダニによる被害葉

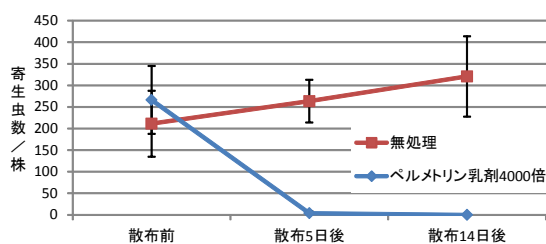


図1 ほ場試験での寄生虫数(2011年、福島農総セ)
2011年11月29日 は種 (品種 さとゆたか)
2012年2月23日 放虫 (各区成虫約500頭)
2012年3月1日 散布 (草丈約30cm 散布前に摘心した)

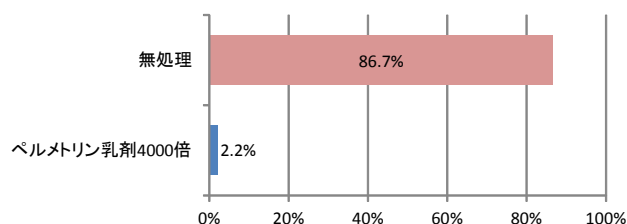


図2 ほ場試験での被害株率(2011年、福島農総セ)

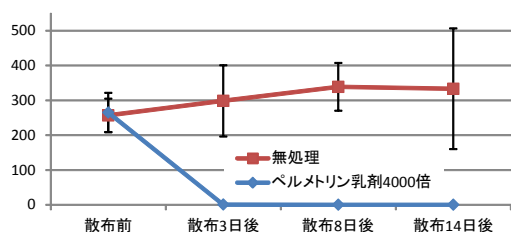


図3 ほ場試験での寄生虫数(2012年、福島農総セ)
2012年10月23日 は種 (品種 さとゆたか)
2013年2月21日 放虫 (各区成虫約500頭)
2013年3月11日 散布 (草丈約30cm 散布前に摘心した)

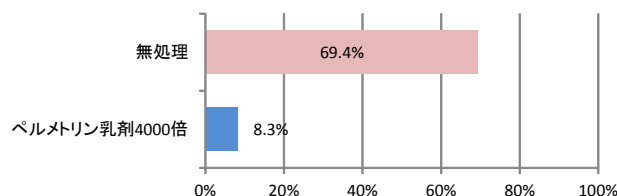


図4 ほ場試験での被害株数(2012年、福島農総セ)

Ⅲ その他

1 執筆者 荒川昭弘

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成23年度～26年度
- (2) 研究課題名 新奇・難防除病害虫の防除技術開発

3 主な参考文献・資料

- (1) 平成23年度農業総合センター、参考となる成果、無加温ハウスでのハクサイダニの発生時期と気門封鎖剤の効果
- (2) 荒川昭弘ら(2012) シュンギクに寄生するハクサイダニに対する各種薬剤の効果. 東北農業研究. 65. 143-144.